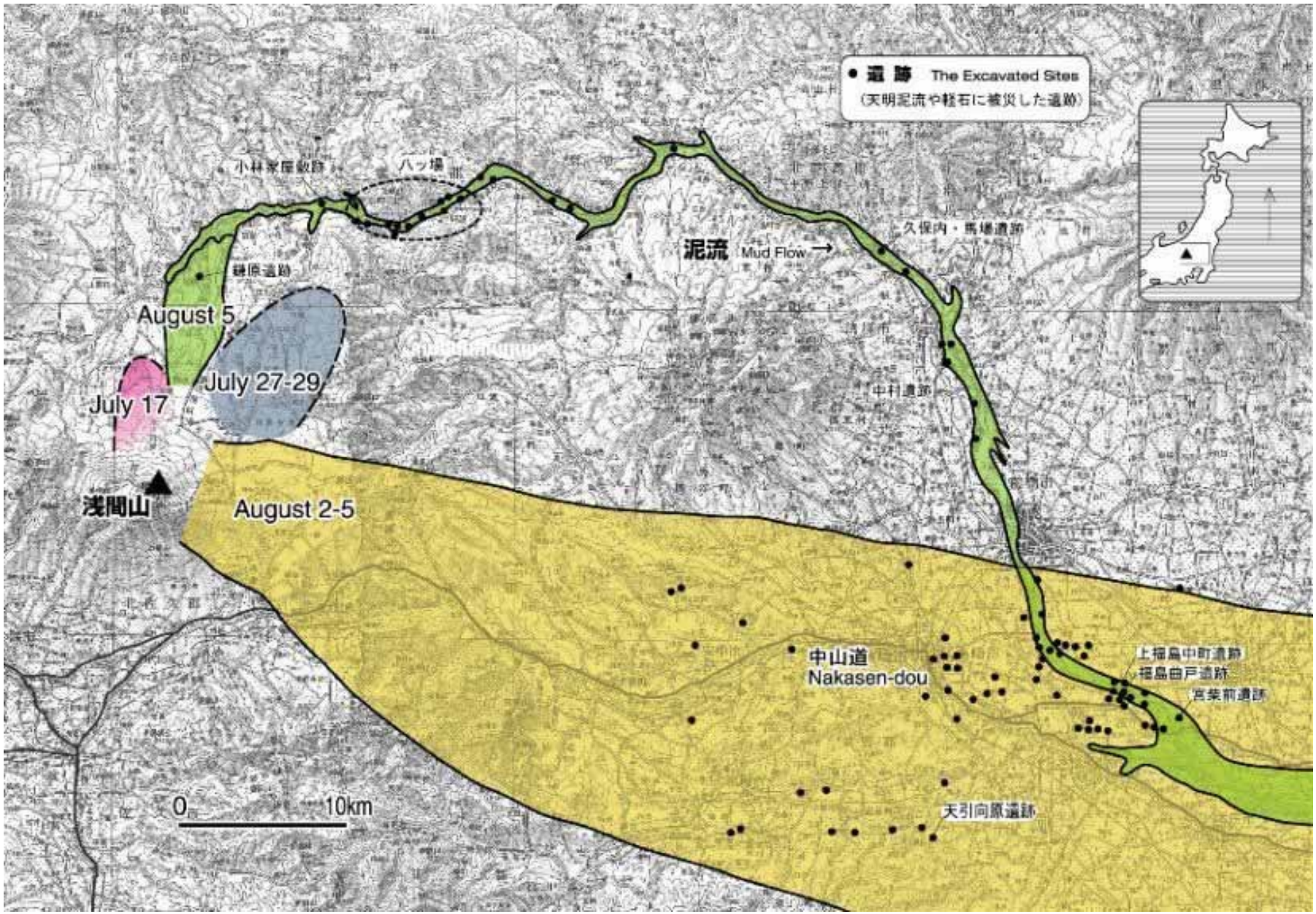
● 遺跡 The Excavated Sites
(天明泥流や軽石に被災した遺跡)
小林家屋敷跡
八ッ場
泥流 Mud Flow
久保内・馬場遺跡
August 5
July 27-29
July 17
中村遺跡
浅間山
August 2-5
中山道
Nakasen-dou
上福島中町遺跡
福島田戸遺跡
宮柴前遺跡
天引向原遺跡
0
10km

第世界災害語り継ぎフォーラム

嬬恋村鎌原地区と浅間山麓地域の取り組み
～天明三年(1783)浅間山噴火災害～

2010.3.21　関　俊明　Toshiaki SEKI

災害マップ

「天明三年を歩く」 ―天明3年8月5日・土石なだれと泥流の爪痕―

(別)群馬県埋蔵文化財調査事業団『調査ほ々』5号 1997 を修正。
市町村名は、平成の大合併以前。

❶浅間山
標高2568m。複合成層型の代表的活火山。数個の火山体から構成され、前掛山が最も新しい火山体。有史以降の記録を見てもかなりの数の噴火が確認できます。残された降下軽石堆積物は明らかに識別可能なものが約10枚あり、その最上部3層は特徴的で上から下に浅間A、B、C層と命名され、噴火年代は1783年、1108年、4世紀頃とされています。現在、浅間山火口4km以内は警戒区域として立入禁止ですが、峰の茶屋登山道入口から小浅間山頂までは「見る浅間山」のコースとして入山が認められています。

❷町営浅間火山博物館・嬬恋村鎌原
浅間火山に関する地質や災害についての記録などが展示されており、火口に設置されたビデオカメラからの映像をライブで見ることもできます。溶岩の洞窟をイメージした「地底マジカルホール」、地球の鼓動が聞こえる「ロストワールド」など、施設も盛りだくさんです。

❸鎌原観音堂・嬬恋村鎌原
天明３年８月５日に浅間山火口から流出した火砕流と発生した土石なだれが鎌原村を襲いました。一瞬にして家地の村落が押し潰され、477人の命が奪い去られました。生き残った93人は近くの村々の縁から援助と団結力で埋めつくされた村を再建してきたのです。昭和54年に始まった発掘の様子は広く報道され、人々の心を大きく揺り動かしました。観音堂には477人の戒名を刻む三十三回忌供養塔や二百回忌供養石造観音があります。周辺には、流された延命寺の標石やその一部でその頃しるべとなった標石、観音山古墳に備える共同の穀倉などがあります。

❹嬬恋郷土資料館・嬬恋村鎌原
天明の浅間山大噴火によって埋没した鎌原村の悲劇の歴史を、発掘された出土品の展示や映像を通して理解することができます。発掘された延命寺跡や旧鎌原村の集落の出土品が、当時の様子を語りかけてきます。鎌原観音堂近く、浅間・白根火山ルート沿いにあります。

❺常林寺・長野原町応桑
1528年に創建されたといいます。天明３年の噴火に伴う土石なだれによって諸堂宇を流失。文政年間に現在の地に再建されました。被災時に流失した梵鐘は、開治43年に長野原町川原畑で発見され、128年ぶりに寺に帰りました。現在は、浅間火山博物館に展示されています。

❻旧新井村・長野原町与喜屋
熊川を逆流した泥流によって埋まったともいわれる新井村は、戸数６軒の小さな村でした。その家屋や耕地はことごとく流されました。被災後も存続しましたが、明治８年に廃村となり人々の記憶から新井村は消えていきました。現在の長野原町総合グラウンド付近に位置したといわれます。現在も、高台には「逆水寛流慰女」と戒名の刻まれた墓碑があります。

❼善導寺門前供養塔・吾妻町原町
市街地の旧国道沿いの善導寺山門入口の両側にあります。同寺(浄土宗)の発意で天明８年(六回忌)、文化２年(二十三回忌)、文化12年(三十三回忌)、天保３年(五十回忌)、昭和７年(百五十回忌)と５度にわたり供養し立派な供養塔を建立しています。各史料による被害状況をみても原町村では死者が出ていません。それにもかかわらず、これほど後世まで供養し、その碑を建てた例は他にはみられません。

❽林昌寺門前供養塔・中之条町伊勢町
嘉応百年供養記念碑と同二百年記念碑が、参道に向かい合って建てられています。いずれも立派な塔で、「天明の災禍を忘れることなく歴史の教訓を肝に銘じ郷土の発展を誓う」と結んでいます。

❾木の関の供養塔・小野上村小野子
国道353号沿いの小野子バス停北、順塚大学の石室という案内の立つ墓地内にあります。高さ104cm、安山岩の自然石に「流死萬霊等」と刻まれており、現在の吾妻川の流れる眼下に一望することができる高台に建てられています。この辺りから、吾妻川は両岸が開かれた地形となっています。

❿金島の浅間石・渋川市川島
県指定天然記念物。天明泥流により吾妻川を伝い、この地まで運ばれてきました。高さ4m、東西15m、南北10mの巨岩です。このように流れによって運ばれた岩を流水岩ともいいます。同様なものが、中之条町青山、東村新巻、渋川市中村などにもみられます。

⓫流死者供養石仏・渋川市川島
飯塚氏共同墓園の隅地にあります。泥流により運ばれた浅間石の上に多数の石仏が祀られています。十王・地蔵・餓衣婆などで、天明３年の泥流により流死した川嶋村113名の供養のために渋川・金井・南牧・祖母島の寺特者が造立したといわれています。

⓬興福寺入口駒貫感恩の碑・子持村北牧
天明３年の浅間災害の後、46年目の文政12年(1829)の建立です。泥流の被害状況と幕府勘定吟味役柴原九郎左衛門の救恤状況を記し、当を得た救済処置で被災から復興した恩恵が忘れられないよう、個村の福増寺の金峰和尚の提案で北牧村の古老たちが建てた碑と記されており、江戸時代の民政を知るとても貴重な資料といわれています。

⓭人助けの榧の木と供養碑・子持村北牧
北牧村では泥流によって53名の死者が出たと記録され、その際この榧の木に登って数十人が難を逃れたと伝えられています。樹齢は400年を越え、当時の樹勢は見られませんが、天明３年の災害を伝える生き証人として国道353号沿いにたたずんでいます。地元では、実と葉の臭いから「へだまの木」とユーモラスな呼ばれ方もします。

⓮流死者墓・渋川市金井
高さ45cm、幅35cm、浅間石の自然石に「流死墓」と刻まれています。渋川北中学校の東、「金井住民センター入口」の看板を北に入った住宅の入口にあり、被災にあった無縁仏と伝えられています。

⓯真光寺入口供養塔・渋川市並木町
碑自は自然石の台石の上に建てられています。高さ総丈130cm、地元の人々によって建立されたもので、梵字に続けて「流死萬霊墓」と刻まれています。

⓰元景寺境内供養塔・前橋市総社町
恐れ村の人々は上流から押し流された被災者を引き上げ勝山地内に合葬し、翌年盂を弔うためにこの供養塔を建てました。後年、利根川の決壊による流失の危険から、この供養塔は元景寺境内の現在地に移されました。塔の裏に当時の惨状と建立の理由が刻まれています。

⓱天明地蔵碑・伊勢崎市戸谷塚
被災による戸谷塚村の死者は記録の上では確認されていませんが、付近の利根川岸に当時は700人あまりの遺体が流れ着いたといいます。翌天明４年、戸谷塚の人々の手で建てられた供養地蔵碑です。昭和37年に嬬恋村と長野原町の手で建立された供養碑も並んでおり、今でも毎年、天明三年被災者供養の念仏和讃を讃え、菩提を弔っています。

⓲八斗島の供養碑・伊勢崎市八斗島
利根川沿いの八斗島の共同墓地の入口にあり、頂部が四角錐、高さ76cmの四角柱の供養塔です。左右の側面にそれぞれ２字の戒名で、男性31人、女性６人の戒名が刻まれています。流れ着いた遺体を合葬し、村人が一様に戒名を付したものといわれます。隣人愛に満つるものがあります。

⓳旧中島村薬師堂境内供養塔・境町中島
記録によれば、泥流災害時に中島村の人々は、流れ着いた男女36人の遺体を拾い上げ、この墓地に葬ったといいます。村中で建立したというこの供養塔には「流死霊魂位」と刻まれ、境南中学校の100m程西よりの薬師堂内に建てられています。

⓴円福寺門前供養塔・千代田町舞木
利根川左岸堤防沿いの円福寺の入口にあります。この付近では、泥流により500間の堤防が破れ、田地が５尺も風くなったという記録が残っています。泥流の堆積は、この地区の後の大洪水による破堤の発生に大きく影響を与えました。付近の畑の隅にはこの泥流によって運ばれた浅間石が今も点在しています。泥流に被災した人々に対する利根川流域の本庶分郡下流の供養塔とされています。浅間山火口からの流下距離は約130km。

●さらに、泥流は千葉県関宿で、鬼子へ向かう一方、江戸川（旧利根川）に入り東京湾へも流れ込みました。その際に運ばれた遺体が手厚く葬られたことが伝えられ、江戸川区東小岩・善養寺、葛飾区柴又・題経寺、江戸川区東小松川・義願寺などに当時の被災と隣人愛を今に伝える供養塔が残されています。

合掌